

緑の風



JR東労組

NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2025年 4月 25日 No.104

JR 福知山線脱線事故から20年

2005年4月25日に発生したJR西日本福知山線脱線事故から20年が経過しました。犠牲となられた107名の方々のご冥福を心からお祈りいたします。

◆事故原因の一つが「日勤教育」

国土交通省 航空・鉄道事故調査委員会(当時)の報告書によると、事故の「原因」として、「ペナルティであると受け取られることのある日勤教育又は懲戒処分等(中略)を行うという同社の運転士管理方法が関与」と指摘しています。JR 西日本による個人への「責任追及」体質が事故を引き起こしたのです。



日勤教育を恐れるあまり、自らのミスに関する車掌と指令の無線交信に注意がそれたことでブレーキ使用が遅れ、70km/h制限(当時)の曲線に約116km/hで進入、脱線したと考えられている

◆JR東日本でも「懲罰的日勤教育」が相次ぐ

一方、JR東日本でも、長期の日勤教育で追い詰められた社員・組合員が数多くいます。医療保護入院にまで追い込まれた組合員に対して、会社は「適切な指導」だったとしています。が、実態はパワハラや恫喝であり、福知山線脱線事故の教訓が全く活かされていません。

◆不安全が常態化した企業風土を変えるため、たたかおう！

また、JR 東日本では「融合と連携」として多能化が進み、増収イベントでの出張が数多く行われる一方、要員不足によって訓練センターでの訓練すら受講できない実態があります。休日出勤や長時間労働で疲弊し、さらには短期間での異動や担務変更、兼務によって習熟度が低い社員が増加、運行トラブルや「あわや」という事象が頻発しています。このような企業風土を変えるため、JR 東労組は「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を掲げ、会社と向き合っています！



**「この会社おかしくないか？」と思いつつ、諦めていませんか？
本音を言えるJR東労組に結集し、安全風土を再確立しよう！**

4月25日、JR 西労の集会に JR 東労組の代表者で出席し、営利優先・責任転嫁の企業体質に抗するたたかいを学びました！